

個人(様式6)

平成26年 2 月 27 日

教育長様

校園名 大阪市立西高等学校

校園長名 寛座 純一

印

申請者 職名・名前 教諭 松下 眞治 印

(電話 06-6531-0505 FAX 06-6531-9613)

平成25年度「がんばる先生支援」事業報告書

平成25年度「がんばる先生支援」について、次のとおり報告します。

1 研究コース (基礎・今日的課題) 研究コース ※()内はいずれかに○を記入してください。
2 研究テーマ「キャリア教育の必須化に向けたプログラム開発－義務教育で導入予定の新教科「道徳」も視野に入れて－」
3 研究内容 本研究は当初、対象を主に本校情報技術科2年生を考えていたが、実際には実践が1年生とほぼ半分の割合になった。その理由は、担任である2年生のLHRがすでに年度計画で決定していて、実践をする時間が確保できなかったからである。 それを補う意味で、1年生の授業のなかで学習指導要領の範囲を逸脱しない範囲で実践を心がけた。 教科「キャリア教育」のカリキュラムの骨子として、自己理解、他者理解、仕事理解というキャリア教育の定石とコミュニケーション、人間関係スキルなどのソーシャルスキル、バイスタンダー教育、防災教育などのシチズンシップ教育を取り入れた。 具体的には、これからの高校生活、自己理解を深める、他者理解を深める、インターンシップ、コミュニケーション能力を高める、働く意義を理解する、世界観(グローバル教育)を拓める、大学選びを間違わないために(会社選びを間違わないために)、より良い市民として生きていくために(シチズンシップ教育)、1年間の振り返りの10テーマを約30項目に分けた。 プリントや教材として作成できた内容は、職業興味検査・職業適性検査、困り感アンケート、社会人基礎力尺度、キャリアパス(私の将来)、アンガーマネジメント、コンセンサスワーク、ピア・サポート、ディズニーから学ぶ、働くとは?、労働に関する法律、もしも電気のない村で生活したら、カンボジアで靴を売るために、著作権を知ろう、バイスタンダー教育、防災ゲームという16項目を作成した。 実施については、職業興味検査、社会人基礎力尺度、キャリアパス(私の将来)、コンセンサスワーク、ピア・サポート(希望者の研修参加)、働くとは?、労働に関する法律、著作権を知ろう、防災ゲーム(教員研修)という9項目を行った。 10月29日、11月22日、12月20日、2月7日、2月27日 指導案を基に、専門家の指導(藤岡秀樹先生)

11月25日、12月10日 教員研修準備、研修(防災教育)会(中田 哲先生)

8月9～10日 日本学校相談学会第25回研究大会

10月26日～27日 日本キャリア教育学会研究大会で発表

10月13日～14日 日本ピア・サポート学会研究大会に参加

その他:大阪市教育センター主催のピア・サポート研修を受講

文部科学省キャリア教育指定事業推進校 私立立命館宇治高等学校 CSL推進委員会(授業見学含む) 外部委員として出席(6月、11月、2月)

4 具体的な検証方法と明らかになった成果

大阪市の高校オリジナルの「キャリア教育」の授業カリキュラムのうち、職業興味検査・職業適性検査、困り感アンケート、社会人基礎力尺度、キャリアパス(私の将来)、アンガーマネジメント、コンセンサスワーク、ピア・サポート、ディズニーから学ぶ、働くとは?、労働に関する法律、もしも電気がない村で生活したら、カンボジアで靴を売るために、著作権を知ろう、バイスタンダー教育、防災ゲームの16項目のプリントや教材が作成できた。

継続的に測定した社会人基礎力尺度は、生徒自身が一目で分かるような質問紙なので、自分の成長を確認しつつ、12の能力のなかで優れている能力、努力を要する能力などを理解して、今後の高校生活の具体的な取り組み方を提案するものになった。(感想など)

教員研修(防災教育)の先生方のアンケートでは、「日頃から、防災教育の必要性を感じていた?」(とてもあてはまる44% あてはまる56%)、「防災ゲーム「クロスロード」を授業やLHRなどで生徒に実施したいと思った?」(とてもあてはまる5% あてはまる83%)、「防災ゲーム「クロスロード」はコミュニケーション能力向上に役立つと思う?」(とてもあてはまる17% あてはまる78%)、という防災教育に対する好印象の結果を得ることができた。

量的な分析については、この報告書の提出時には間に合わなかったが、データ入力および分析にはかなりまとまった時間を要し、冬休みを予定していたが年末の父の死去により、その時間を失ってしまった。

春休みや夏休みを利用してデータ入力および分析し、所属学会の発表や大阪市教育センター紀要のようなものに投稿できるようなら報告したい。

困り感アンケートとアンガーマネジメント教材は、平成25年度大阪教育弘済会の研究実践論文「生徒理解を深める特別支援教育の取り組みについて-困り感アンケートの作成とアンガーマネジメント教材の開発-」に投稿し、奨励賞を得た。

先行研究や文部科学省キャリア教育指定事業推進校の私立立命館宇治高等学校などの結果で見られるように、年間を通じた「キャリア教育」の縦断的研究(量的分析)では統計的に有意な関係になることが極めて少ない。(t検定では個人の変化はあっても、量的(生徒数)に平均してしまう)

また、進路不安・ストレスなどは教育(情報や知識を深めた)を受けたことにより、高まるという事例がよくある。生徒の成長を示す「揺らぎ」によるものと考えられる。

今後については量的分析を意識しつつ、質的分析(個人の変容)を行い、なぜ変容が起こったのかという変容のメカニズムを理解していきたい。

そのためには、インタビューなどの半構造化面接などの導入やキャリアカウンセリングの充実を図る必要があると考えている。

5 研究発表の日程・場所

(日程) 平成 年 月 日 (場所)

※今日の課題研究コースは必ず記入

上記の内容を原則としてA4判2ページで作成し、平成26年2月28日までに大阪市教育センター「がんばる先生支援担当」まで提出すること。(研究内容、資料等を添付すること)